13　廃菌床を原料にした堆肥を活用したれんこん産地（JA徳島市）

徳島県徳島市　2023年5月時点

その他　固形　県外

○　JA徳島市れんこん部会は、化学肥料主体から有機質肥料主体の施肥へ切り替え、収量の増加と生理障害の減少により、産地の活性化を目指す。

■国内資源の種類

・ブナシメジ等の廃菌床

■肥料の種類・肥料名称

・堆肥（特殊肥料）
・コーン堆肥

■作物

・れんこん

■主成分の含有量（%）、特徴等

N	P	K	C/N比
1.2	0.8	0.7	23

・廃菌床が原料の100%有機質肥料

■取組の経緯・内容・成果（見込み）

取組の経緯

・徳島県徳島市川内地区は、昭和30年代かられんこん栽培を行ってきたが、近年は連作による生理障害や腐敗の発生、地力の低下により極端に収量が低下していた。
・このため、栽培コンサルタントの指導のもと、現状の石灰窒素の化学肥料主体から、有機質肥料の使用率を高め、堆肥による土作りと、乳酸菌、光合成細菌など微生物資材を活用した持続的農業へ切り替えることとした。

取組の内容

・徳島県は菌床しいたけの産地であり、使用済みの菌床は廃棄されているため、堆肥化を検討しているが、肥料製造施設整備には到っていなかった。
・そのため、近隣の香川県で製造している廃菌床を原料とした堆肥を土作り資材として施用することとなった。

成果

・これまで低下していた収量が400kg/10aから800kg/10aと増加し、腐敗症率が70%から20%に減少した。取組に成果がでていることが生産者間で広まり、新たに取り組みたいという生産者が増えている。

■主たる取組主体と肥料利用までの流れ

資源供給者：ブナシメジ等生産者（香川県東かがわ市）
→
肥料製造者：ホクト廃菌床堆肥センター（香川県東かがわ市）
→
肥料利用者：JA徳島市れんこん部会(徳島県徳島市：25軒)

■今後の課題・取組

・収量2,000kg/10aの目標に向けて、化学肥料主体から有機質肥料主体の施肥に切り替えを推進。
・土壌診断結果に基づく適正施肥体系の実施。